

長崎原爆資料館展示更新基本計画 (最終案)

令和6年3月

長 崎 市

目次

第1章	長崎原爆資料館の概要	
1	長崎原爆資料館の概要	1
2	展示の現況	3
第2章	基本計画の概要	
1	計画策定の趣旨	6
2	長崎原爆資料館運営審議会でのこれまでの審議経過	6
3	取組みの優先順位・更新対象	8
第3章	長崎原爆資料館運営審議会 小委員会での検討内容	
1	小委員会の設置	11
2	小委員会各論点のまとめ	12
第4章	展示更新にかかる基本方針	
1	長崎原爆資料館の基本理念・設置目的（再掲）	17
2	展示更新により目指す姿	18
3	展示更新の基本的な考え方	18
第5章	展示構成案	
1	展示構成案	19
第6章	展示更新の方針	
1	各ゾーンの展示更新の方針及び主な展示内容	21
第7章	展示の配置及び展示手法	
1	展示の配置・動線の検討	27
2	展示手法の検討	29
第8章	中長期的な取組み	
1	今回の展示更新以降も継続して取り組むもの	31
2	将来的な建替えや大規模改修に向けた対応	31
第9章	概算事業費と事業スケジュール	
1	概算事業費	32
2	事業スケジュール	32
資料編		
	・長崎原爆資料館条例	33
	・長崎原爆資料館運営審議会委員名簿	41
	・小委員会での意見一覧	44
	・パブリック・コメント実施結果の概要	62
	・入館者向けアンケート（WEB）結果	68

第1章 長崎原爆資料館の概要

1 長崎原爆資料館の概要

(1) 沿革

原爆の惨禍から立ち上がった市民の復興への意欲と、世界恒久平和の念願を象徴するため、長崎国際文化都市建設法（昭和24年8月9日施行）の一事業として、昭和30年（1955年）2月に長崎国際文化会館が建設され、被爆資料の展示などを行っていた。

被爆50周年記念事業の一つとして、老朽化した同館の展示機能の充実を図る目的から、長崎国際文化会館の建替えを行うこととし、平成5年（1993年）7月解体を始め、同年9月から主体工事に着手した。建替期間中は長崎市平和会館で仮展示を行った。

平成8年（1996年）4月、名称を長崎原爆資料館と改め、現在の施設が開館した。

(2) 基本理念

長崎国際文化会館の建替えにあたり作成した基本構想及び基本計画において、原爆資料館の基本理念を次のように定めている。（平成4年（1992年）2月）

長崎市は、原爆被爆都市の使命として核兵器の脅威と非人道性、戦争の悲惨さ、平和の大切さを世界に訴える責務がある。

したがって、原爆被爆に関する資料の体系的な整備、展示、保存を図るとともに戦争の恐ろしさと原爆被爆の体験を次代を担う子供たちに語り伝え、世界恒久平和実現に努力する国際平和都市長崎のシンボリックな施設とする。

(3) 設置目的

長崎原爆資料館の開館に向け、長崎原爆資料館条例を制定し、資料館の設置目的を次のように定めている。(平成7年(1995年)12月)

(設置)

第1条 本市は、原子爆弾により被爆した都市の使命として、被爆の実相と長崎市民の平和への願いを広く国の内外に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与するため、原爆資料館を設ける。

(事業)

第3条 長崎原爆資料館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 被爆及び平和に関する資料の調査、収集、保存及び展示に関すること。
- (2) 平和学習、被爆体験の継承その他平和を考える場の提供に関すること。
- (3) 平和を推進するための調査及び研究に関すること。
- (4) その他市長が必要と認める事業

(4) 施設の概要

大型資料を展示するための吹き抜け空間を設けたワンフロアの展示室や、被爆体験講話や映像などによって平和について学ぶことができる原爆資料館ホール等を設けるなど、世界恒久平和を願う長崎市の平和の発信拠点施設である。

ア 所在地 長崎市平野町7番8号

イ 敷地面積 15,391.53㎡

ウ 建築延面積 7,949.73㎡

エ 総事業費 6,641,562,494円

オ 構造 鉄筋コンクリート・一部鉄骨造 地下2階、地上2階

カ 各階の内容

2階	会議室、応接室
1階	図書室(ビデオコーナー)、事務室
地下1階	エントランスロビー、原爆資料館ホール、平和学習室、ビデオルーム、いこいの広場、ミュージアムショップ、喫茶室
地下2階	常設展示室、企画展示室、収蔵室

2 展示の現況

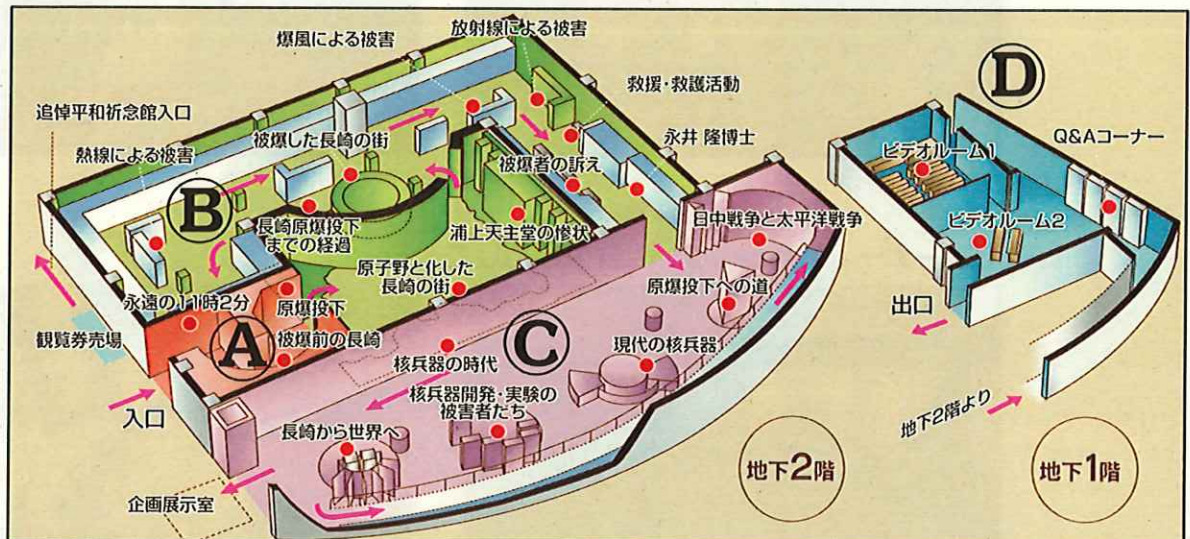
(1) 常設展示

被爆の惨状をはじめ原爆が投下されるに至った経過、核兵器開発の歴史、平和希求などのストーリー性のある展示を行っている。

大型の原爆被災資料、被爆した浦上天主堂の壁面の再現造型などにより、被爆直後の長崎の惨状を再現している。各コーナーの展示は、遺品や被爆資料などの現物、被爆の惨状を示す写真、記録映像や証言ビデオなどの映像資料、模型、歴史年表、解説文等により展示している。

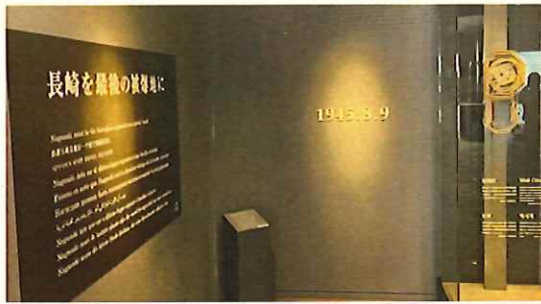
主要展示資料には、日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語表記キャプションを設置し、音声ガイドやスマートフォンにより多言語で展示解説を閲覧できる。

ア 展示室案内図

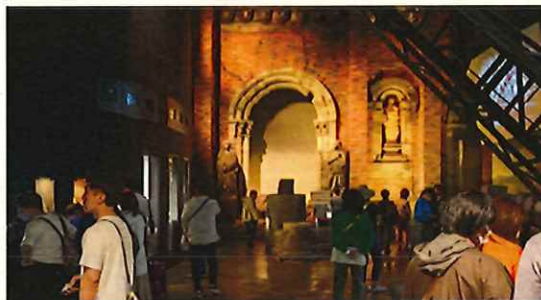


イ 展示室内の写真

Aコーナー：1945年8月9日



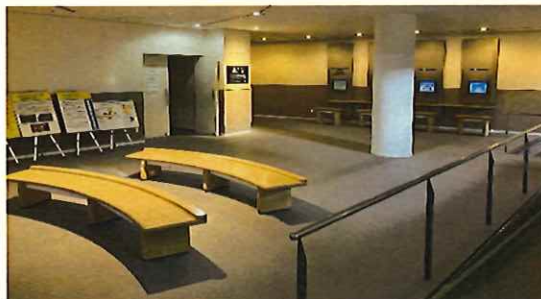
Bコーナー：原爆による被爆の実相



Cコーナー：核兵器のない世界を目指して



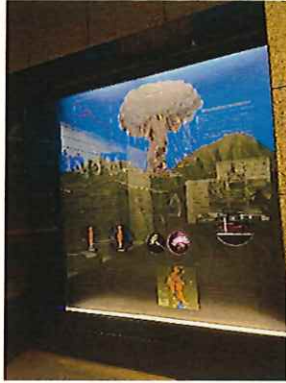
Dコーナー：ビデオルーム、Q&Aコーナー



(2) これまでの改修の経過

ア 被爆 60 周年記念事業・平成 17 年（2005 年）度・18 年（2006 年）度

来館者に理解が難しい B コーナー「放射線による被害」の一部改修、開館以降壁面パネルの情報が更新されていない C コーナー「核兵器の時代」の一部改修及びタッチパネルの追加を行った。



「放射線による被害」



「核兵器の時代」壁面パネル及びタッチパネル

イ 被爆 70 周年記念事業・平成 26 年（2014 年）度・27 年（2015 年）度

各コーナーにおいて、映像・情報機器等の追加導入を行った。また、スロープ側面に、現在の空間から被爆時に遡るというコンセプトによる遡年表示を、展示室入口には、象徴展示として 11 時 2 分を指して止まった「柱時計」と「長崎を最後の被爆地に」とのメッセージを追加した。被爆の実相にかかる展示では、長崎に投下された原子爆弾（ファットマン）の色調を現物と同じ黄色に再現し、記載台を設けることで、見学者の学習環境の整備も行った。被爆者の訴えコーナーでは、原爆絵巻「崎陽のあらし」や被爆者が書いた絵などをデジタル化し、被爆者が訴える情報を充実させた。



11 時 2 分を指して止まった「柱時計」



ファットマン模型

第2章 基本計画の概要

1 計画策定の趣旨

原爆資料館は、平成8年（1996年）の開館から27年が経過し、これまで被爆60周年、被爆70周年記念事業として、一部改修を行っているが、展示内容については、開館時から大きく変わっていない。

開館当初に比べ、戦争を遠い時代だと感じる世代が大多数を占めるようになるとともに、被爆者数も年々減少し、「被爆者のいる時代」から「被爆者のいない時代」へ移行しつつある。また、ウクライナ危機が長期化するとともに、イスラエル・パレスチナ情勢が深刻化し、核兵器の使用が現実的な選択肢の一つであることを示唆されており、核兵器をめぐる国際情勢は緊迫度を増している。

このような中、これからも被爆者の思いを伝え続け、平和な世界を次の時代につないでいくためには、時代の変化に対応した展示へ見直す必要があることから、被爆80周年記念事業として展示更新を実施することとし、令和5年度は、展示更新にかかる基本計画を策定し、令和8年度以降の完成を目指す。

2 長崎原爆資料館運営審議会でのこれまでの審議経過

(1) 審議経過

令和元年度及び令和2年度の審議会において、Cコーナー「核兵器のない世界を目指して」の展示について、令和3年度には、他の平和関係資料館のリニューアルにかかる調査結果等も紹介し、原爆資料館全体の展示について意見交換を行い、ご意見をいただいている。

また、令和4年度の審議会においては、これまでの意見を踏まえ、展示更新にかかる基本的な考え方を示すとともに、展示更新までのスケジュールや検討体制などについて説明し、ご意見をいただいた。

(2) 審議会における主な意見

これまでの審議会における主な意見は、次のとおりである。

ア 展示全体に関する主な意見

- 戦争を知らない世代・子どもたち・外国の方にもわかりやすい展示にしてほしい。(被爆者のいない時代に向け、次世代への伝え方の検討)
- 自分たちにもできることを考え行動してもらえるような展示にしてほしい。
- 訪れた人が最後に希望を持てるような展示にしてほしい。
- 周辺の前爆遺構等への誘導ができていない。
- 平和学習における前爆資料館の位置づけを明確にする必要がある。

イ 個別の展示に関する主な意見

- 被爆者の苦しみやその後の被爆者運動などにも触れてほしい。
- 前爆症についても、新しい知見がたくさん出ており、医学の進歩も取り入れてほしい。
- 核兵器をめぐる現状について最新情報を展示すべき。(情報の即時性)
- 前爆投下に至った歴史展示について表記も含め、検討が必要。
- 長崎について被爆から復興の歴史が不十分。
- 若い世代の平和活動を紹介してほしい。
- Cコーナー全体について
 - ・集団での見学でも流れに沿ってわかりやすい展示の検討が必要。
 - ・限られたスペースでどういった展示を行うのか検討が必要。
 - ・取り扱う内容が多岐にわたっており、将来的に展示面積を広げる必要がある。
 - ・被爆 100 年を見据えた展示のあり方を検討してほしい。

ウ その他の意見

- 観覧動線、配置、資料保存、多様な観覧者への対応、デジタル技術を活用した展示手法の工夫が必要。

3 取組みの優先順位・更新対象

審議会での意見を踏まえ、展示更新における取組みの優先順位や更新対象のエリアを次のとおり整理した。

(1) 取組みの優先順位

Aコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、資料の入れ替え等の調整にも時間を要する。一方で、Cコーナー及びDコーナーについては、昨今の国際情勢も踏まえ、時代やニーズに応じた展示へ早期に見直す必要がある。このことから、今回は、Cコーナー及びDコーナーを中心に展示更新を行う。

なお、被爆資料にかかる聞き取り調査の展示への反映や、資料館の建替えや大規模改修とあわせて検討すべき課題については、今回の展示更新後も継続して検討・対応していく。

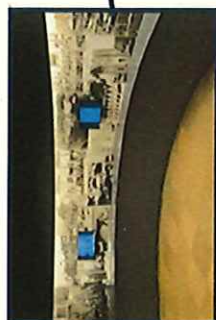
(2) 更新対象のエリア

今回の展示更新の対象とするエリアを次のとおりとする。

【地下2階】



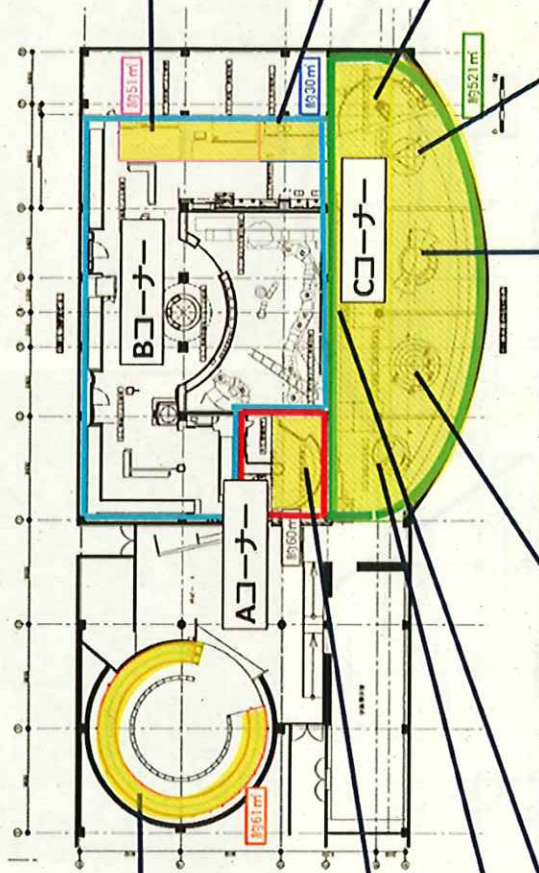
スロープ



被爆前の長崎



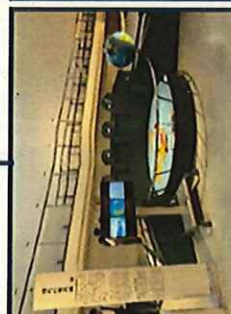
長崎から世界へ



核兵器の時代



核兵器開発・核実験の被害香港



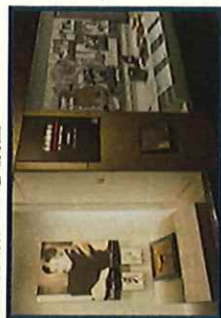
現代の核兵器



原爆投下への道



放射線による被害



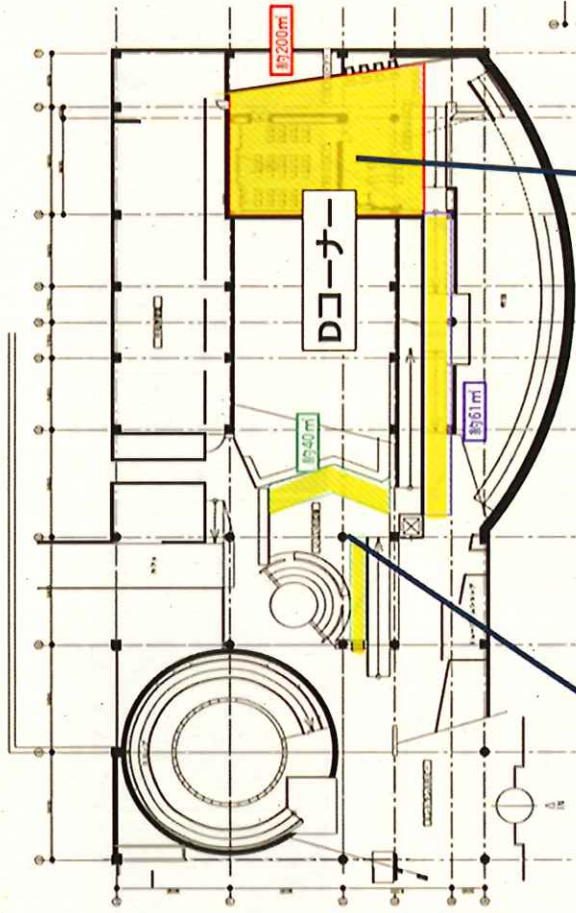
永井隆博士



日中戦争と太平洋戦争

黄色着色部分が今回の対象エリア

【地下1階】



ビデオルーム・Q&Aコーナー



いこいの広場

第3章 長崎原爆資料館運営審議会 小委員会での検討内容

1 小委員会の設置

(1) 課題への対応を検討するうえで、特に調査・検証が必要な論点

これまでの審議会等が出された意見をもとに、常設展示の問題点を把握し、特に調査・検証が必要な内容を5つの論点に整理した。これらの論点について、専門的な視点から検討するため、学識経験者からなる小委員会を設置し、課題の整理や展示更新の方向性の検討を行った。

- ア 被爆医療や放射線等に関する展示
- イ 原爆投下に至る歴史に関する展示
- ウ 核兵器をめぐる国際情勢に関する展示
- エ 若い世代に自分事として捉えてもらうための展示、未来志向の展示
- オ 展示全体を通したストーリー性、展示の配置や観覧動線

(2) 審議会・小委員会での検討経過

事務局	審議会	小委員会	会議の内容
展示更新基本計画の策定について			
		第1回 (令和5年7月7日)	会長・副会長の選任について 原爆資料館の運営状況について 長崎原爆資料館展示更新基本計画の策定について 計画の概要、目指す姿・コンセプトなど 小委員会の設置について（構成委員、検討内容、運営方法等）
		第1回 (7月27日)	核兵器をめぐる国際情勢に関する展示 被爆医療や放射線等に関する展示
		第2回 (8月24日)	原爆投下に至る歴史に関する展示
		第3回 (9月19日)	若い世代に自分事として捉えてもらうための展示、未来志向の展示 第1・2回の振り返り
		第4回 (10月19日)	第1～3回小委員会のまとめ 展示全体を通したストーリー性、展示の配置や観覧動線
展示更新基本計画（素案）作成			
		第2回 (11月30日)	小委員会審議内容について 長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）について
展示更新基本計画（最終案）作成			
		第3回 (令和6年3月22日)	展示更新事業スケジュールの見直しについて パブリック・コメント実施結果の概要について 長崎原爆資料館展示更新基本計画（最終案）について 展示更新にかかる令和6年度の取組内容について

2 小委員会各論点のまとめ

(1) 被爆医療や放射線等に関する展示

(目的)

- ・放射線による被害が、いかに特殊であり、被爆者が長く苦しめられ、また、どのように向き合ってきたのか、医学の進歩による新しい知見も含め、わかりやすく伝える。

(課題)

- ・放射線の影響について、世界に向けた発信が不足している。
- ・放射線の影響については、専門的な記載が多く、理解が難しい。
- ・放射線のもたらす人体影響が、生涯にわたって続くというストーリー性が不足している。
- ・「核開発・実験の被害者達」のコーナーは、モニターが小さく見にくい。

(展示更新の方向性)

1. 放射線が人体にもたらす様々な影響（引き起こすがんの種類、メカニズムなど）について、デジタル技術の活用などにより、視覚的にわかりやすく示す。
2. 原爆が単なる大きな爆弾ではなく、爆風、熱線に加え、放射線という特殊性のある爆弾であることをわかりやすく展示する。
3. 原爆による放射線の影響は、後から次々と生じ、被爆者の健康、精神に被害をもたらし、逃れられない不安が生涯続くということを、ストーリー性をもって展示する。
4. 胎児被爆、被爆二世を含め、被爆医療の取組みや成果についても示す。

(2) 原爆投下に至る歴史に関する展示

(目的)

- ・原爆投下の背景にあった歴史や、原爆の開発から投下に至るまでの道のりを、戦争から遠くなった世代がわかりやすく理解することができ、原爆や平和について考えられるようにする。

(課題)

- ・世界史の中の日本の動きについて、大きな潮流が見えてこない。
- ・歴史的背景やストーリー性はあるが、多角的な視点が不足している。

(展示更新の方向性)

1. 歴史をきちんと見つめることが未来につながる、という姿勢に基づいて検討する。
2. 戦争という大きな時代の潮流を理解するため、次の点を踏まえた展示とする。
 - (1) 世界史の中で日本がどのように位置づけられていたのか、国際的な繋がりを捉えた展示とする。
 - (2) 戦争や核兵器使用に関する国際的な潮流・局面ごとに分け、ストーリー性のある展示とする。
 - (3) 時系列だけでなく、テーマ別に新たな視点を取り入れた展示とする。
 - (4) 戦争には被害と加害の両方の側面があるため、一面からではなく、多角的な視点から考えることができるよう、客観的事実に基づいた展示とする。
3. 「いかなる理由があっても原爆投下は正当化できない」、「核兵器は絶対に使用してはならない」という長崎のメッセージにつながる展示とする。

原爆投下に至った背景を理解するうえで必要な4つの視点

1 「平和思想の後退」

ハーグ平和会議、パリ不戦条約により平和思想が定着しつつあった直後の、日本による後退の流れ

2 「戦略爆撃の展開」

日本による錦州空爆に続き、ゲルニカ、東京大空襲など、一般市民に対する戦略爆撃の歴史

3 「核開発の歴史をより大きな大量破壊兵器の開発の歴史の中に位置づけること」

より大規模な殺戮を可能とする大量破壊兵器の開発の歴史の中で、核分裂物質の発見と核分裂のエネルギーの解放によって核兵器がどのように開発されていったのかについての検証

4 「核兵器使用の決定」

原爆投下論争についての理解

(3) 核兵器をめぐる国際情勢に関する展示

(目的)

- ・誰もが今も核兵器のある世界に生きる当事者であると感じてもらう。
- ・核兵器をめぐる複雑な国際情勢、核兵器使用の危険性が高まっていることを伝え、被爆地をはじめ世界の多くの人々が核兵器廃絶のための活動に取り組んでいること、市民一人ひとりの行動が、平和な未来をつくることにつながることを伝える。

(課題)

- ・「核兵器の時代」についての展示は、上中下の3段構成による年表となっているが、事実の羅列になっており、時代の流れや、なぜ核軍縮が進まないのかという点が理解しにくい。
- ・核兵器をめぐる国際情勢が危機感を増している一方で、核軍縮に向けた取組みも続いているという、希望を持てるような展示が不足している。

(展示更新の方向性)

1. なぜ核軍縮が進まないのかという点を理解してもらうため、複雑な国際情勢をわかりやすく理解できるように、事実の列記ではなく、核兵器をめぐる時代の流れを大きく3つに分けて（第1、2、3の核の時代）、ストーリー性のある展示とする。
2. なぜ近年、世界が核戦争に向かって動きつつあるのか、また、核兵器廃絶のためにはどのような道筋があるのか、若い世代に考える機会を与えるような展示とする。
3. 核戦争の危機や象徴的な出来事、核兵器廃絶のために努力・貢献した人々をクローズアップする。
4. 核軍縮に向けた取組みが続いていることを示すことで、未来への希望を持てるような展示とする。

「3つの核の時代」

「第1の核の時代」(1940～1991年)

全面核戦争の危機があった、冷戦時代

「第2の核の時代」(1991～2014年)

冷戦が終わり、旧ソ連が崩壊したことによる核の流出、核テロ、地域への核拡散が見られたものの、核兵器廃絶に向けて努力を重ねた時代

「第3の核の時代」(2014年～現在)

ポスト冷戦期も過ぎ、武力侵攻時の核兵器使用による威嚇なども起こる時代から現在まで

(4) 若い世代に自分事として捉えてもらうための展示、未来志向の展示

(目的)

- ・戦争を知らない世代でも、戦争を他人事ではなく、自分の身にも起こりうることとして捉えられるようにする。
- ・長崎、世界で、どのような反核・平和活動が行われ、どのような成果につながっているのかを知ることで、見る人が自ら平和のためにできることを考え、行動してもらえきっかけとなり、未来への希望を抱くことができる。

(課題)

- ・戦争を知らない世代が増え、自分事として捉えることが難しくなっていることから、まず、被爆の実相を知る必要性を理解してもらう必要がある。
- ・展示を見て感じたことや考えを、共有、発信する場がない。
- ・現在の展示は、表現が難しく、文字も小さいため見づらい。一方で、より詳しく知りたい場合に学べる場がない。
- ・若い世代は、被爆資料や当時の生活など、前提となる知識が少ない。

(展示更新の方向性)

1. 戦争や核兵器の問題を自分事として捉えてもらうため、二度と帰ってこない命や生活に光を当てる展示を充実させ、資料館から出ていく際には、来館者一人ひとりに対し、「あなたはどう行動するのか」という問いを投げかけるようにする。また、若い世代の関心が高い環境問題などが、核問題と直結していることを示す。
2. 双方向発信の強化として、一般の来館者が自分の思いや考えを残せ、外部からも閲覧、コメントができるようなコミュニケーションツールを検討する。
3. 展示では、本当に伝えるべき情報に絞り込み、より深く学びたい人が発展的に学習できるようなデジタルコンテンツ、周辺の被爆遺構への誘導、平和活動団体の活動紹介、平和活動団体へアクセスできる機能を充実させる。
4. 原爆資料館に訪れる度に新しい学び、出会いがあり、平和をつくるための新しいものが生まれる拠点となるよう、展示更新後も、絶えず展示内容の充実、情報発信の強化などに取り組む。

(5) 展示全体を通したストーリー性、展示の配置や観覧動線

(目的)

- ・各コーナーの狙いが理解でき、コーナー同士の関連性も意識しながら見学できるようにする。
- ・集団で見学する際も、流れに沿って見学できるようにする。

(課題)

- ・時系列だけの展示では、フラットな印象があり、理解しにくい。
- ・現在の展示は、高校生、成人向けに文章も書かれており、小学生など低年齢層には難しい。
- ・永井隆博士に関する展示については、永井隆記念館もあり、配置の検討が必要。

(展示更新の方向性)

1. 来館者に理解を深めてもらうため、来館者に問いかけ、考えさせる展示とする。
2. 展示空間、展示ストーリーは展示動線や配置に左右されることから、企画側の意図を伝えるためには、自由動線よりも強制動線が望ましい。
3. 小学生などの低年齢層に対して、展示の仕方を工夫する。
4. リニューアル後も、時代の変化に応じて、情報のアップデート（更新）に努める。
5. 永井隆博士のコーナーは、永井隆記念館に展示を集約する。

第4章 展示更新にかかる基本方針

1 長崎原爆資料館の基本理念・設置目的（再掲）

（1）基本理念

長崎国際文化会館の建替えにあたり作成した基本構想及び基本計画において、原爆資料館の基本理念を次のように定めている。（平成4年（1992年）2月）

長崎市は、原爆被爆都市の使命として核兵器の脅威と非人道性、戦争の悲惨さ、平和の大切さを世界に訴える責務がある。

したがって、原爆被爆に関する資料の体系的な整備、展示、保存を図るとともに戦争の恐ろしさと原爆被爆の体験を次代を担う子供たちに語り伝え、世界恒久平和実現に努力する国際平和都市長崎のシンボリックな施設とする。

（2）設置目的

長崎原爆資料館の開館に向け、長崎原爆資料館条例を制定し、資料館の設置目的を次のように定めている。（平成7年（1995年）12月）

（設置）

第1条 本市は、原子爆弾により被爆した都市の使命として、被爆の実相と長崎市民の平和への願いを広く国の内外に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与するため、原爆資料館を設ける。

（事業）

第3条 長崎原爆資料館は、次に掲げる事業を行う。

- （1）被爆及び平和に関する資料の調査、収集、保存及び展示に関すること。
- （2）平和学習、被爆体験の継承その他平和を考える場の提供に関すること。
- （3）平和を推進するための調査及び研究に関すること。
- （4）その他市長が必要と認める事業

2 展示更新により目指す姿

原爆の被害を遠い昔の出来事ではなく、今の自分にも起こりうることとして受けとめ、自ら平和を考え、行動することにつながる資料館になっている。

3 展示更新の基本的な考え方

館の基本理念や目的は変えず、時代の変化に応じて展示内容を更新する。

- (1) 戦争から遠くなった世代に、戦争（核兵器）によって日常が壊されることを自分事として捉えてもらうことで、原爆の被害の実相や被爆者の苦しみと願いをわかりやすく伝える。
- (2) 誰もが今も核兵器のある世界に生きる当事者であると同時に、平和な未来をつくる当事者であることへの気付きにつなげる。
- (3) 一人ひとりが身近なところから平和について考え、行動するきっかけをつくる。

原爆資料館の基本理念・設置目的



展示更新により目指す姿



展示更新の基本的な考え方



展示更新の方針

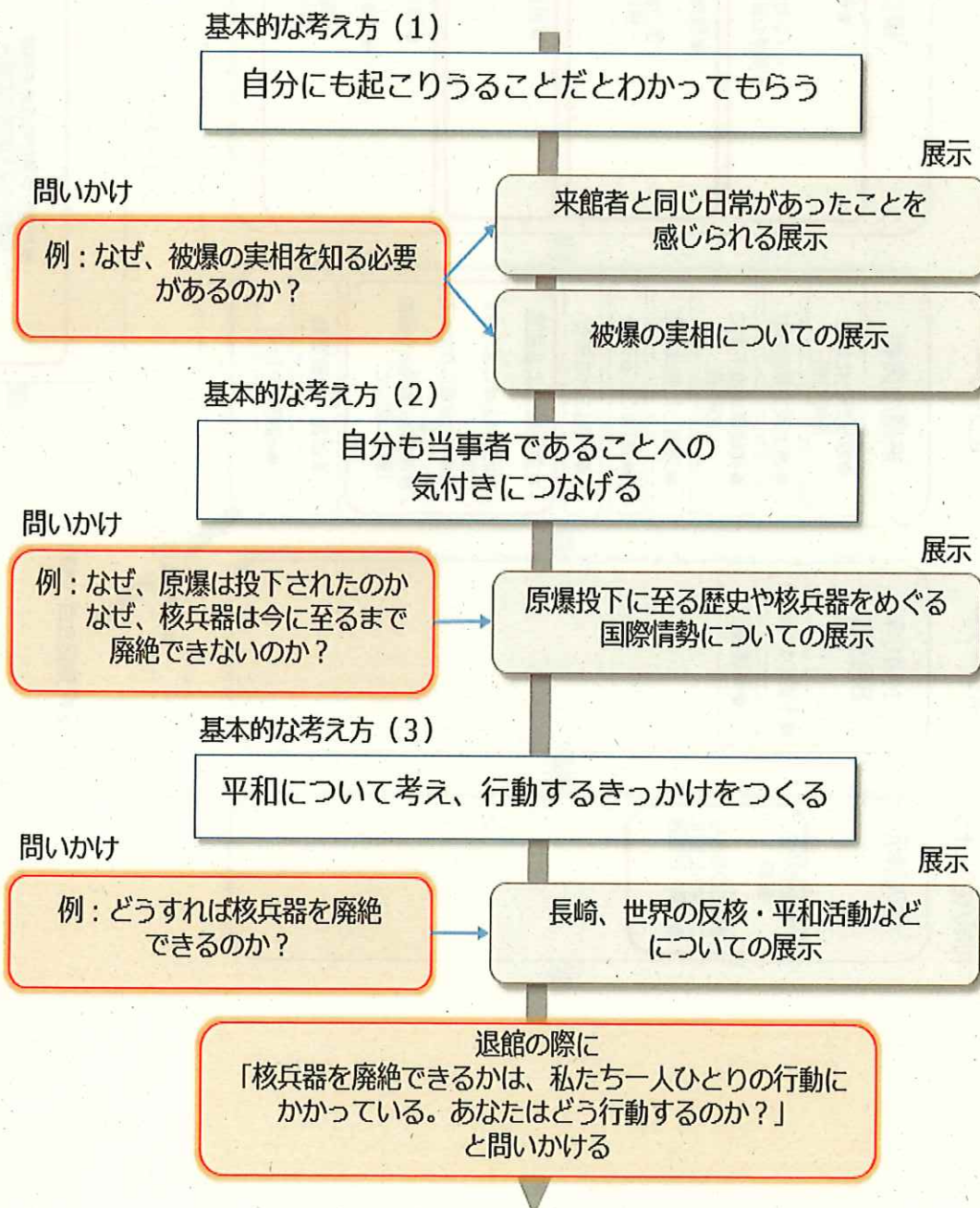
第5章 展示構成案

1 展示構成案

展示更新の基本方針に基づき、来館者が自分事として受けとめ、自分も当事者であることに気づき、行動することができるよう、来館者の思考を促すことに重点を置き、次のとおり展示構成案を整理した。

なお、現時点での構成案であり、次のステップである設計段階において、さらに詳細な検討を行う。

(概念図)



スロープ
円形パビリオン

Aコーナー

導入展示

- 被爆前の長崎

被爆前の暮らしや街並みに関する写真・映像等

1945年
8月9日

- 永遠の11時2分
- 原爆投下

Bコーナー

被爆の実相

- 原子野と化した長崎の街
- 浦上天主堂の惨状
- 長崎原爆投下までの経過
- 被爆した長崎の街
- 熱線による被害
- 爆風による被害

放射線による被害

- 放射線が人体にもたらす影響
- 被爆者の生涯にわたって続く影響
- 被爆治療の取り組みや成果(被爆二世など)

- 救援・救護活動
- 被爆者の訴え

Cコーナー

核兵器のない世界を目指して

- 原爆投下に至る歴史に関する展示
 - 日本の過去の戦争と世界の関係
 - 「平和思想の後退」など、多角的視点による解説
 - 原爆の開発と使用決定の経過及び原爆使用反対の動き
- 核兵器の開発の歴史・現状に関する展示
 - 第二次世界大戦後の核兵器開発・核実験の歴史
 - 核兵器開発・核実験による世界の核兵器増殖
 - 世界の核兵器増殖
 - 現代の核兵器・核戦略
- 核兵器をめぐる国際情勢に関する展示
 - 核兵器をめぐる国際政治・国際情勢
 - 核戦争の危機や象徴的な出来事
- 核兵器廃絶に向けた動きに関する展示
 - 平和首長会議や日本非核宣言自治体協議会の活動
 - 平和宣言
 - 核兵器廃絶に努力・貢献した人々の紹介
 - 核兵器禁止条約など核兵器廃絶に向けた動き
 - 長崎・世界の反核・平和活動

Dコーナー

通路・いこいの広場等

- 振り返りや学びを深める機能
- 長崎市の平和教育の取組み
- 周辺の原爆遺構への誘導
- 長崎の復興の歴史

- 双方向のメッセージ発信機能
- 平和活動団体等へのアクセス情報
- 来館者に向けた最後のメッセージ

● 永井 隆博士

永井 隆記念館へ集約

※赤枠が今回の主な展示更新の対象
項目名は、内容を表したもので
展示コーナーの名称ではない。